

全教

実教部NEWS

第137号

2024/12/26発行

さんざたまげる全国学習交流集会報告

第32回全教実習教員部全国学習交流集会が10月13日～14日の2日間、新潟県南魚沼郡湯沢町で開催され、全国22組織から44名が集いました。「集いあい・語りあい・学びあう」を集会テーマに、特別講演と全体学習会、さらには4つの分科会に分かれ、レポート発表や情報交換がおこなわれました。



講師：高橋 信夫氏

初日の特別講演では、元全教実習教員部副部長の高橋信夫さんより、「理科実験と実習教員問題の解決のために」と題し、ご自身の体験と新潟の現状を踏まえて「実習助手」制度改革実現に向けたとりくみの歴史と、理科実習教員の待遇改善について講演をいただきました。

参加者からは「懐かしい話が聞けて良かったです」「実習教員の歴史がよくわかりました」「これまでの実教部運動について改めて学ぶことができました」「実教部のこれまでの歩みと当時の熱量を感じました。現在の実教部が抱えている問題を考える上でたいへん勉強になりました」。また「当たり前のように職員会議で意見など発言できることやパソコンの配布、賃金の頭打ちがなくせるなど、過去の実教部のとりくみを経て、あたりまえとなったことを知ることができ、組合活動の重要性を知ることができました」「『実習助手』制度改革の生い立ちについて、貴重なお話を聞かせていただきました」など、多くの感想が寄せられました。



実教部：魚住部長

2日目の全体学習会では、全教実習教員部・魚住部長より、『これまで』と『これから』の実習教員部運動を考えていく」と題し、現行制度上に置かれた実習教員の現状を把握し、今後のとりくみで何を求めていくのかを集会参加者の皆さんと一緒に考えました。

参加者からは「『実習助手』制度改革に向けて現状をより深く理解し、どう足並みをそろえてくかを考えさせられました」「全国に運動を広め、今現場が抱えている問題は何なのかをしっかりと話し合っていきたいと思いました。わかりやすい説明資料が完成されていて本当に良かったと思います」「自分たちの置かれたそのものを知ることが重要であると気付く機会となりました」など2日目も多くの感想が寄せられました。



e1 ecology ★普通科(理科・家庭科・視聴覚・図書など)の実験・実習教育

今回は、3本のレポートがあり、1本目は埼玉高より理科実習教員について実験実習・研修会・職務等についての報告、2本目は和歌山高よりクラブ活動のとりくみで高校・大学・地域連携の活動報告、3本目は大阪高より火山の噴火実験実習の体験と盛り沢山な内容で、本年度採用されたばかりの参加者と共にとっても充実した時間を過ごすことができました。

参加者からは「同じ理科の実教でも仕事内容や配置が様々であると再認識ができました」「たくさんのお話を聞くことができました。『実習助手』制度改革についてどのように進めるか、どこがゴールなのか不安もありますが、みんなで力を合わせて頑張っていこうと思います」「若い先生方にどういう働き方がいいのか、できるのかをどんどん発言して運動に関わってくれなければ進めないんだろうなと感じました」などの感想が寄せられました。



火山の噴火実験

e2 education ★職業科(農業・工業・商業・水産・家庭・福祉・看護・情報など)の実験・実習教育



茨城高より、今年赴任した新設 2 年目の昼間定時制高校について、3 年制、4 年制など多様なカリキュラムがあり、学年定員 80 人と生徒数が少なく、教職員の定数も少ないため校務分掌や教科を兼務するなど多忙化していると課題が報告されました。

また、参加者からコンクール参加など各学校のとりくみが報告され、充実した交流となりました。

参加者からは「皆様の工夫・努力をお聞きし、励まされました」「多種多様な勤務の実態を聞くことが出来ましたますます実教部としての運動の大切さを感じるとともに多様となっている勤務に合わせた運動を進めることの難しさを考えさせられました」などの感想が寄せられました。

e3 especially ★特別支援学校・障害児学校の実験・実習教育

毎年、回を重ねる度に話題が尽きることのない e 3 !。今回は ICT 教育と特別支援教育環境について話し合いました。2 日目は日常の事例を基に、実習教員と子どもたちの関わり方について話し合いました。そして、作業学習のネタ交換は毎度ですが盛り上がりました。また、参加者からは、「障害児」という表現を、「障がい児」と表現すべきではないかと意見が出ました。

参加者からは「各道府県の様子を聞けてとても良かった」「あちこちの県で問題が出てきているので、それに対していろいろ智慧を出しあえて良かった」と感想がよせられました。



e4 enjoy

★集いあい・語りあい・学びあう青年教職員

集会開催県である新潟県の糸魚川で採取できる「翡翠」について学びました。その後、糸魚川で有名な「姫川薬石」の石磨きに挑戦！、石に光沢を持たせるために、耐水ヤスリの目の粗い物から細かいものへ順番に磨いていきました。講師からの丁寧な説明を聞くことにより、普段学校で実習や作業学習をする生徒の気持ちを考えるいい機会になりました。また、先輩教員がどのように子どもたちに接しているか体験でき、充実した時間を過ごすことができました。



集いあってみんなで作業に夢中になりながらも、若手教員だからこその悩みや、職場で感じることなどを共有することができ、活力がもらえる分科会になりました。

参加者からは『石』のミリョクを知りました。集いあい、みなさんの話を聞けることがとても大切な時間でした。学校に戻って『石』の話をしてみたいと思います」と感想が寄せられました。



次回開催県は福井県！！

次回開催県の紹介が担当常任の吉田事務局長次長からありました。

「第33回全国学習交流集会は福井県で開催します。『制度改革』検討も2年目のステージへ。現場で奮闘する皆さんの問題意識を共有し、より良い制度改革を模索していきます。恐竜王国、そして食の国『ふくい』で多くの参加をお待ちしています」



最後に、今集会コーディネーターの藤元常任委員から「皆様のおかげで無事に全教実習教員部全国学習交流集会 in 新潟を終えることができ感謝無量です。さんざ【たくさん】たまげる【びっくりする】全国学習交流集会だったと思います。全国の実習教員の皆さんが、これからの実習教員部運動にかかわり、待遇改善が実現することを願っています」と、締め括りの挨拶で閉会しました。



集会アピール

憲法の理念を実現し、子どもたちが安心して学べる学校教育の確立と
ゆきとどいた実験・実習教育を実現させましょう

5 「集いあい・語りあい・学びあう」、ここ新潟県南魚沼郡湯沢町で開催された全教実習教員部第32回全国学習交流集会は、組織の違いをこえ、全国から22組織44名の仲間が集いました。

本集会では、全国の実習教員が教育の専門職として奮闘している様子や、日頃職場で抱えている課題などを交流しあい、今後の実習教員部運動をより発展させるものとなりました。

10 分科会では、子どもたちへの安心・安全な実験・実習教育のとりくみ、わかりやすい実験・実習教育の実践報告がおこなわれました。あわせて私たち実習教員も安心・安全に働くための環境づくりや、その条件整備について意見交流がすすめられました。また、様々な教育活動を通して成長していく子どもたちに、私たち実習教員がどのように関わっているか、実習教員は教育の専門職であるにもかかわらず、勤務条件や校務分掌、賃金などの処遇で恣意的に差別され、子ども
15 たちに不利益が生じている実態などの報告がありました。さらには「実習助手」制度改革実現に向けた運動のすすめ方や、仲間を増やす組織拡大に向けたとりくみの重要性について活発な討論がなされました。

本来、教育の目的とは、人格の完成をめざし平和な国家と社会の形成者を育むことであるにも
20 にかかわらず、現政権は、憲法改悪と一体化した軍事拡大の「増税路線」を掲げ、安倍政権そのままの継承と言わざるを得ない、「国による教育への介入」「もの言えぬ教員づくり」「教育の管理統制強化」「財界いいなりの人材育成」をひた隠しに押しすすめています。改憲派がねらう憲法26条の改悪では、教育条件整備を「教育環境の整備」に置き換え、環境という言葉のすり替えにより、教育に対する国の介入や統治をさらに強めようとしています。

25 私たちは、憲法9条の改悪による「戦争する国づくり」や、憲法26条の改悪による「国による教育介入」を許すのではなく、国民が安心して暮らせる平和な社会の実現を求め、教職員組合の原点である「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンのもと、今集会で学んだことを糧に、どの子にもゆきとどいた実験・実習教育の確立に向け、教職員・保護者・国民と共同したとりくみをすすめていきましょう。

30

2024年10月14日

第32回全日本教職員組合 実習教員部 全国学習交流集会